

グローバルメディア 研究センター



グローバルメディア研究センターは、メディア環境が急速に変貌する中で、情報がいかに生産され流通し、消費されていくのか、そしてそれが国際社会における国家や企業の活動にどのようなインパクトを与えるのかという、グローバル・コミュニケーションのあり様を明らかにする学際的研究を進めることにより、メディア・コミュニケーション研究の発展に貢献いたします。近年指摘されることが多い、いわゆるフェイク・ニュースやソーシャル・メディアを通じた情報操作という高度情報社会の負の側面に関連する研究にも挑戦していく所存です。さらに、その成果を本学の教育及び地域社会に還元することにより、研究と教育の相互連関による発展を目指します。

研究センター長からのご挨拶

グローバルメディア研究センターは、地球規模で急速に進むグローバル化・デジタル化を踏まえ、メディア・コミュニケーションにかかわる学際的研究を進めるべく、名古屋大学国際言語文化研究科メディア・プロフェッショナル論講座の研究者が中心となって、2015年4月に設立され、2017年4月の本学の研究科再編に伴い、新設の情報学部・情報学研究科に移管されました。

メディア・プロフェッショナル論講座は2003年の設立以来、メディア・コミュニケーションに関する理論的・実践的研究を進める一方で、中部地方における報道機関や諸企業との社会連携の中で、博士前期・後期課程の教育プログラムを提供してまいりました。高度情報化社会においてリーダーシップをとることのできる、社会的倫理観と豊富な知見・実践的なスキルを備えた人材の養成に尽力してきたのです。お陰様で修了生は、アジアや欧州からの留学生を含む160名を超え、国内外の報道機関や公共・民間放送局、地方自治体、諸企業などで活躍しています。これもひとえに、本講座を支えてくださった皆様のお蔭であると、心より感謝しております。

グローバルメディア研究センターは、こうした14年余のメディア・プロフェッショナル論講座の研究教育実績を踏まえて、設立が実現いたしました。ソーシャル・メディアが世界的に影響力を拡大する一方、新聞やテレビなどの伝統メディアが影響力を相対化させる中で、国際的な情報流通は飛躍的に拡大し、国家や企業の国際的な影響力も、効果的な対外情報発信能力を持っているかどうかが大きく左右する時代を迎えています。他方で、ソーシャル・メディアを利用した、いわゆるフェイク・ニュースの拡散や外国政府による情報操作、選挙介入の試みは、インターネットの登場が肯定的側面ばかりではないことを明らかにしています。

メディアを取り巻く環境の変化に鑑み、当センターはメディア・コミュニケーション研究のプラットフォームを提供し、国内外の研究機関とも連携しながら、学際的アプローチによる各種の研究を進め、その一環として、国内外の研究者や実務家を招聘し、国際シンポジウムや「パブリック・レクチャー」、「ザ・プロフェッショナル・レクチャー」を開催しております。また、2016年2月には設立記念シンポジウム「グローバル社会と日本：戦後70年を越えて」を開催し、その報告を中心に『戦後70年を越えて—ドイツの選択・日本の関与』（一藝社）を刊行いたしました。さらには、研究体制の一層の充実強化を図るべく、2018年に兼務教員5名を新たにお迎えし、科研プロジェクト「ポストトゥルースの時代における新しい情報リテラシーの学際的探求」等に取り組んでいます。こうした取り組みを通じ、当センターは中部地方におけるメディア・コミュニケーション研究の中核拠点になることを目指します。専任2名、兼務7名という小所帯ですが、皆様からのご支援とご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

2019年9月

研究センター長
中村登志哉

スタッフ

専任教員



研究センター長 **中村登志哉** (教授)

名古屋大学情報学研究科教授。オーストラリア・メルボルン大学政治学研究科博士課程修了、Ph.D. (政治学) 取得。平和・安全保障研究所客員研究員などを経て、2010年から現職。専門は国際関係論、特に日本やドイツ・欧州の外交・安全保障政策、パブリック・ディプロマシー等にも関心を置いています。著書に『ドイツの安全保障政策－平和主義と武力行使』（一藝社）、編著に『戦後70年を越えて－ドイツの選択・日本の関与』（一藝社）、訳書に『ドイツ統一過程の研究』（ゲルトヨアヒム・グレースナー著、青木書店）、共著に Shearman, P. ed., “Power Transition an International Order in Asia: Issues and Challenges” (Routledge, 2013年) など。



事務局 **井原伸浩** (准教授)

名古屋大学情報学研究科准教授。メルボルン大学社会政治学研究科博士課程修了、Ph.D. (政治学) 取得。神戸大学法学部特命講師などを経て、2013年から現職。専門は、国際政治史、政治学。現在の研究関心は1970年代の日本政府が、東南アジアにおいて自国のイメージを高めるべく、いかなる外交政策を採ったかを分析しています。論文に「福田ドクトリンと ASEAN 重視政策」(中村登志哉編『戦後70年を越えて－ドイツの選択・日本の関与』所収、一藝社) など。

兼務教員



山本竜大 教授
(社会情報学専攻)



唐沢 穰 教授
(心理・認知科学専攻)



久木田水生 准教授
(社会情報学専攻)



遠藤 守 准教授
(社会情報学専攻)



小川明子 准教授
(社会情報学専攻)



笹原和俊 講師
(複雑系科学専攻)



後藤明史 准教授
(情報基盤センター)



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

グローバルメディア研究センターの研究活動実績

2015年

【国際パブリック・レクチャー】

- ・Adam Garfinkle (米国学術誌 American Interest 編集長), “What would Charles Evans Hughes think? - or the ‘pivot to oblivion’”, 2015年11月2日.

【ザ・プロフェッショナル・レクチャー】

- ・斉藤潤一 (東海テレビ放送) 「ドキュメンタリーの作り方」2015年7月4日.

【定例研究会】

- ・井原伸浩 (名古屋大学) 「日本のイメージ外交: 1970年代の東南アジア政策を事例に」2015年4月15日.
- ・中井仙丈 (チュラロンコン大学, タイ) 「タイ社会における日本への関心の変遷: タイ3大学の論文テーマを事例に」2015年5月19日.
- ・Ushma Jacobsen (オーフス大学, デンマーク), “Travelling Danish TV drama: assemblages of cosmopolitan connections?”, 2015年6月10日.
- ・中村登志哉 (名古屋大学) 「ドイツにおける安全保障規範と国内世論」2015年7月29日.
- ・加藤靖志 (共同通信社) 「日本メディアの中国語報道: 現状と課題、可能性」2015年10月23日.

2016年

【グローバルメディア研究センター設立記念シンポジウム】

- ・『グローバル社会と日本: 戦後70年を超えて』2016年2月12日.

【国際パブリック・レクチャー】

- ・川崎剛 (サイモンフレイザー大学, カナダ) 「カナダから見た東アジアと日本」2016年10月12日.
- ・Nick Bisley (ラトロブ大学, オーストラリア) “Challenges and Chances in Australia and Northeast Asia”, 2016年10月27日.

【定例研究会】

- ・小金丸貴志 (名古屋大学) 「現代台湾社会の基層と日本イメージ」2016年6月1日.
- ・加藤博章 (名古屋大学) 「非軍事手段による人的支援の模索と戦後日本外交」2016年6月22日.

2017年

【ザ・プロフェッショナル・レクチャー】

- ・井原康宏 (共同通信社名古屋支社長) 「報道の最前線から国際通信社の挑戦」2017年7月14日.

【研究フォーラム】

- ・渡邊啓貴 (東京外国語大学)、前嶋和弘 (上智大学)、児玉昌己 (久留米大学)、中村登志哉 (名古屋大学) 「反グローバリズムとポピュリズムのナラティブ」2017年3月7日.

【研究大会】

- ・グローバル・ガバナンス学会第10回研究大会事務局、2017年5月13日、14日.

【定例研究会】

- ・唐沢穰 (名古屋大学) “The Ideological Nature of Japanese Nationalism and Patriotism” 2017年8月10日.
- ・中村登志哉 (名古屋大学) 「欧州のポピュリズムはどこへ向かうのか—ドイツ連邦議会選挙から考える」2017年12月12日.

2018年

【国際パブリック・レクチャー (在名古屋米国総領事館共催)】

- ・Nicholas Kravev (ワシントン外交アカデミー所長) “The Changing Media Landscape and Media Literacy in the Digital Age” 2018年11月7日.

【ザ・プロフェッショナル・レクチャー】

- ・平和博 (朝日新聞社) 「フェイクニュースの構造と課題」2018年2月13日.
- ・軍司泰史 (共同通信社編集委員) 「ヨーロッパのポピュリズムはどこに向かうのか」2018年10月18日.

【定例研究会】

- ・井原伸浩 (名古屋大学) 「東南アジアの反日感情はいかに緩和されたか: 国家のイメージと首相のイニシアティブ, 1974-77」2018年3月29日.
- ・久木田水生 (名古屋大学) 「ポストトゥルース時代の情報リテラシー」2018年7月30日.
- ・林秀弥 (名古屋大学) 「データ主導時代における法政策課題—IoT、ビッグデータ、AIと法—」2018年9月28日.
- ・山本竜大 (名古屋大学) 「フェイクニュースの伝えられ方: 日本経済新聞の事例から」2018年12月5日.

2019年

【国際パブリック・レクチャー・懇話会 (グローバル・ガバナンス学会共催)】

- ・Prof. Miranda Schreurs (ミュンヘン工科大学教授、ドイツ) 「持続可能な開発をめぐるグローバル・ガバナンス」懇話会、2019年1月13日.

【特別シンポジウム】

- ・「フェイクニュースとどう向き合うか—メディアの現場と社会科学・情報科学の対話」於立教大学、2019年3月31日. (立教大学理学部、名古屋大学アジア共創研究教育機構共催)

【出版】

- ・ハンス・クンドナニ著、中村登志哉訳『ドイツ・パワーの逆説』一藝社、2019.
- ・中村登志哉 (編著) 『戦後70年を越えて—ドイツの選択・日本の関与—』一藝社、2016.
- ・中村登志哉共編・解説『米国立公文書館 (NARA) 所蔵 連邦緊急事態管理庁 (FEMA) 記録 オンライン・アーカイブ』極東書店、2016年.
- ・Toshiya Nakamura, “Japan is back!”, *France Forum*, Institut Jean Lecanuet, No.62, pp.36-37, 2016. (フランス語)

センターの概要

名 称 グローバルメディア研究センター
附 属 名古屋大学大学院情報学研究科
設 立 2015年4月

連絡先
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学
情報学部棟3階302 グローバルメディア研究センター事務室
メールアドレス: gmrc@i.nagoya-u.ac.jp